1．国語

学校番号	2102

令和２年度　国語科

教科	国　語	科目	国語総合ｂ	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	「新編 国語総合」（第一学習社）						
副教材等	「表覧演習／新常用漢字／基礎編」（京都書房）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この授業は、古典分野（古文・漢文）の基礎を学習します。古典文を口語訳し、内容の理解をめざします。文法や漢文の句法の学習もしていきます。
・授業では、プリントを配り、学習内容を記入してもらいます。また、自分の意見の発表等も行います。
・古典を読むことで、昔の人々のものの考え方や感じ方を知るとともに、言葉や感情などが現代の私たちにも通じているということを理解していきます。

2　学習の到達目標

・言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を養う。
・文章に描かれている人物の心情を正しく読み取ることができる。
・古典を読むために必要な文法や句法を身につける。
・伝統的な言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重する態度を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を学びながら、日本の言語文化に興味を持ち、当時のものの考え方や感じ方を知ろうとする。	文章を的確に読み取り、自分の考えを深め、発展させることができる。	古典の言葉遣いの決まりや特徴を理解し、またその知識を身につけられている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ワークシート等）	記述の確認及び 分析 （ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ワークシート） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	d	e		
前期（後期）	古文入門	・歴史的仮名遣い ・五十音図 ・いろは歌	○		◎	a:日本の言語文化に興味を持ちながら学習する姿勢がある。 e:古文特有の言葉の決まりを理解し、正確に書き表すことができる。	a、e:行動の観察及び記述の確認
	随筆	教材:『枕草子』 文法等…助動詞	○	◎	○	a:古文を読むときのリズムや言葉遣いを知り、古文の雰囲気を味わおうとしている。 d:古文特有の言葉に注意しながら読み進め、内容及び登場人物を把し、その人物の心情を理解することができる。 e:筆者の記述について、また本文中の助動詞について確認し、内容を理解することができる。	a:行動の観察 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト及び定期考査
	古文の文法	・品詞について ・動詞の活用について	○		◎	a:品詞について、また動詞の活用について現代語との違いを把握した上で理解しようとしている。 e:品詞の種類と、古文に出てくる動詞の活用について理解することができる。	a:行動の観察 e:記述の確認及び小テスト、定期考査
	物語	教材:『伊勢物語』「筒井筒」 文法等…動詞の活用、敬語表現	○	◎	○	a:古文の物語の表現の仕方や和歌について興味を持ちながら学習することができる。 d: 登場人物及び内容を把握し、その人物の心情を和歌から読み取り理解することができる。 e:本文の内容を理解し、またこの作品ができた背景について知ることができる。	a:行動の観察 d: 記述の確認及び定期考査 e: 記述の確認及び小テスト、定期考査
	漢文入門	・用語解説 ・返り点について 教材:故事成語	○		◎	a:漢文を学びながら、古人のものの考え方や感じ方を知ることができる。 e:漢文の基礎やルールについて理解することができる。	a:行動の観察 e: 記述の確認及び小テスト、定期考査

	漢文	教材:「両頭蛇」 文法等…句型 (禁止・使役・ 仮定・反語・限定)	○	◎	○	a:漢文の登場人物や内容に興味を持ちながら学習することができる。 d:漢文の読み進め方を知り、内容を的確に把握し、登場人物の心情を捉えることができる。 e:本文の内容を理解し、本文に込められた意味が理解できる。	a:行動の観察 d: 記述の確認及び定期考査 e: 記述の確認及び小テスト、定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　d:読む能力

e:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。